

「地域間交流促進プログラム(シンガポール・インドネシア)」を実施 ～ 報告書概要紹介 ～

1. 趣旨・概要

クレアシンガポール事務所では、全国市町村国際文化研修所等との共催で、2012年11月14日(水)から11月24日(土)まで、シンガポール・インドネシアへの視察ミッション「地域間交流促進プログラム」を実施しました。

この事業は、日本の地方自治体職員等を海外に派遣し、政府機関・企業等の訪問や市民との交流などを通じて、両国間の政治経済・文化交流等における現状と課題の理解を図り、今後の地域間交流の契機とすることなどを目的として、2007年度から開催しています。

今回は、先進的な施策の数々で日本の地方自治体からの注目を集める都市国家シンガポールと、日系企業の進出が加速するなど経済成長著しいインドネシアを訪問しました。今般、本プログラムの報告書を発行するにあたり、以下に概要を紹介します。

2. シンガポールとインドネシア

(1) 施策アイデアの宝庫 ～シンガポール～

面積740㎢と東京23区程の国土に、福岡県と同程度の人口約530万人が住むシンガポールの国家システムは、日本の自治体の施策に参考となる点も多く、ここ最近の自治体からの年間訪問者数は、シンガポール事務所へ支援依頼があったものだけでも、年間で100件近くを数えます。今回は、シンガポールの経済政策、年間1,300万人を集める観光客の誘致施策、空港・港湾など戦略的なインフラ開発や世界をリードする水政策など、日本のみならず世界中から注目を集める各施策のエッセンスを凝縮したプログラム構成としました。



シンガポールシティギャラリーの視察

また、クレアならではの幅広い現地ネットワークを活かし、参加者のニーズに応じたテーマ別プログラムを設定し、行程中の1日は、それぞれ「観光戦略と海外販路開拓」、「都市インフラと国家戦略」に分かれて視察や訪問を行いました。

現地では、政府各機関への訪問・視察のほか、当地に駐在員事務所を設置する自治体関係者から県産品の販路拡大などに向けた活動の聞き取り、シンガポール人の経済専門家からの“日本の地域経済活性化の可能性”等に関する講義、シンガポール国立大学の日本研究学科の教授との交流会の実施など、海外研修ならではの要素が満載のプログラムとなりました。

(2) ASEAN 成長の象徴 ～インドネシア～

約 2 億 4,000 万の人口を抱える ASEAN の大国インドネシアは、ここ数年内需拡大による順調な経済成長を続け、一人あたり GDP は、車や生活家電などの普及が拡大されると言われる US3,500 に到達しました。若く、巨大な市場は世界から注目を集め、ここ 2、3 年は、ほぼ 1 日 1 社のペースで日系企業の進出が進んでいると言われています。



インドネシアの学生との交流会の様子

今回は、注目を集めるインドネシアの動向を、経済、地方行政、文化・人的交流といった幅広い観点から学ぶ機会を得ました。

経済分野では、ジャカルタ東部の工業団地や日系企業視察、インドネシア投資の総合窓口である投資調整庁への訪問等を行い、最前線で活躍する人の声を聞くことができました。

一方、国家の急成長の背景で、インドネシアにおける地方行政も、住民福祉の向上や都市化に伴う各種問題への対応などに直面しています。こうした実情に対する理解を深めるため、地方分権について日本の成功から学びたいと語る内務省の局長とのディスカッションや、首都ジャカルタの渋滞抑制に向けた都市交通問題への取組現場の視察を行いました。

また、インドネシアは非常に親日的な国として知られており、高校の第二外国語として多くの若者が日本語を学習するなど、今後の地域間の人的交流や文化交流の発展も期待されます。交流プログラムでは、将来の両国の交流を担うであろう、日本語を学ぶインドネシアの学生と率直な意見を交わし、今後の草の根交流の可能性を探る良い機会となりました。

3. プログラムのハイライト

【インドネシア編】

(1) インドネシア概況と地方行政

- ・インドネシアの悪名高い“渋滞”が象徴するといわれる経済の現状とは。“遅々として進む国”インドネシアの今とこれからの行方を展望するエピソード。
- ・インドネシア内務省の局長が語る地方分権の現状と課題、日本の自治体との連携・協力の要望。首都ジャカルタが取り組む渋滞緩和対策とは？

(2) 日本語学習者との交流事業・市内視察

- ・将来の交流を担うインドネシアの若者が語る日本と、世界3位の日本語学習者を抱えるインドネシアとの人的交流の可能性。
- ・日本食材の進出先候補のひとつ？インドネシア最先端の富裕層向け小売店を訪問。その際、ミッション団一行が遭遇したアクシデントとその社会背景とは？

(3) 経済情勢と投資環境

- ・2020年には中間層が7割へ、2億人市場の魅力と課題。
- ・インドネシア政府の優先投資促進3分野とは？投資インセンティブの整備による、明るい兆しと、インドネシア市場争奪戦。

(4) 工業団地視察・日系企業訪問

- ・製造業の進出拠点として人気のジャカルタ近郊の工業団地を訪問。企業進出加速により、ここ2年で約3倍に上昇したあるものとは。
- ・二輪、四輪部品関連、オーディオ家電関連の日系企業2社を訪問。進出時の留意点、労働問題や賃金上昇などの背景について、豊富な経験に基づいた実情を報告。

【シンガポール編】

(1) シンガポール概況 ～JETRO・JNTO 現地スタッフが語るシンガポール～

- ・シンガポール経済を牽引する2つのエンジンと「Host to Home」政策とは？
- ・東南アジアからの誘客を促進する“3つのキーワード”

(2) シンガポールの都市計画と現在の姿

- ・シンガポールの都市の成り立ちと、開発計画が一目でわかるビジターセンター
- ・「MICEと統合リゾート」、「緑化政策（City in a Garden）」、「日本食材の発信拠点」、3つのテーマの要所を視察

(3) シンガポール人経済専門家のレクチャー、シンガポール企業の海外展開支援施策

- ・シンガポールの経済学者から見た、シンガポール経済成長の秘訣と、日本の地域経済活性化の方策とは？
- ・官民一体となった企業の国際展開戦略のブレーション ～IE シンガポール～

(4) シンガポールの観光政策・日系旅行社訪問

- ・年間1,300万人を誘致する観光政策のアプローチ、アジアの近隣国の成長を見据えた事業展開とは？
- ・シンガポールにおける“北海道観光ブームの火付け役”が熱く語るメッセージ

(5) 海外販路開拓

- ・自治体事務所設立から15年、シンガポールのスーパーに人気商品として並ぶ高知の逸品と活路を見出した戦略とは。
- ・シンガポールで110年の歴史を持つ、ローカルスーパーの企業戦略をレポート。日本食品の位置づけを理解し、販路拡大のアプローチを考える。

(6) 都市インフラ開発

- ・最先端の都市インフラを世界へ展開。空港、港、水政策のノウハウをビジネスにつなげる最先端の現場を視察。
- ・世界17か国でオペレーションを展開するPSAの港湾運営、水の再生（Newater）工場の2060年をターゲットとした目標、世界のハブを目指すチャンギ国際空港の今後の展望を報告。